

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2015

6月

No.120

特集 P2・3

つながりふくしプラン

平成26年度
事業・決算報告

4年次の取り組み

地域住民が主体の
福祉のまちづくり

ひ孫と
いっしょ

シリーズ 119

千種町 西河内

中田 澤子さん(82歳)

○ 渉空くん(14歳)

○ 凜音ちゃん(10ヶ月)

中田 孝さん・陽子さん

■長男・長女



宍粟の豊かな地域福祉をつくる大きな力に～街頭募金を呼びかけるボランティアと保育園児～(H26.10.1 道の駅播磨いちのみや)

つながりふくしプラン

平成26年度
事業・決算報告

4年次の取り組み

地域住民が主体の 福祉のまちづくり



宍粟市社会福祉協議会では、5月29日第27回評議員会を開催し、平成26年度の事業報告ならびに決算が承認されました。

平成26年度は、23年度に策定した「第2次地域福祉推進計画（つながりふくしプラン）」で4年次の取り組みとして掲げた活動を推進しました。

今月号では、26年度に社協が取り組んだ活動と決算の概要についてお知らせします。

住民が主体となった 地域福祉活動を推進

宍粟市の地域福祉活動は、市民の皆様とともに進めています。つながりふくしプランも4年が経過し、住民同士の支え合いや助け合いの精神が**つながりのカタチ**となってきました。

特に、自治会単位での見守り活動やボランティア活動は、地

域住民の主体的な取り組みとして広がりを見せており、本会としても、その活動の担い手となる福祉委員や新たなボランティアの養成を行いました。

また、募金・会費等福祉活動財源の確保にも市民の皆様のご協力をいただき、地域福祉活動が展開できました。

地域福祉活動の 自主財源がさらに減少

しかし、地域福祉活動財源である善意銀行預託金や赤い羽根共同募金は相当減少しており、26年度決算では、善意銀行預託金は前年度比180万円の減、共同募金配分金は、800万円を割り込んでいます。

このような状況の中、介護サービス事業も経営状況が厳しくなっており、社協事業の見直しや経営効率を考える事業メ

ニユーの精査などが喫緊の課題となっています。

地域福祉活動を充実させるためにも、募金等の使途を明らかにし、今まで以上に皆様からの協力を得ながら、自主財源の増強に努めます。

社協の役割をどう発揮 していくかが課題

2月15日(日)に開催した「地域福祉のつどい」での、自分の地域の課題と向き合う3つの実践報告は、今後の社協活動への大きなヒントとなりました。

この報告からも、少子高齢化と限界集落化が進む宍粟市にあつて、地域福祉を「まちづくり」とともに進めていく実践が社協の役割として問われています。

こうした活動を地道に取り組むためには、やはり皆様の協力が欠かせません。引き続き、ご理解ご協力をお願いします。

26年度の決算報告は、特別号のとおりです。事業報告、決算報告の詳細については、本会ホームページや本部各支部窓口でご覧いただけます。

(地域支援課 波多野好則)

平成
26年度

住民主体の地域福祉活動を進めました

(事業報告書より一部掲載)

福祉連絡会の組織づくりと活動支援

市内各自治会で福祉委員、自治会役員、民生委員、女性会等を中心とした「福祉連絡会」の組織化が進み、地域で気になる方や心配な方の見守り活動（訪問活動、交流活動等）に取り組みました。

福祉連絡会への活動費 154自治会 4,145,100円
ふれあいサロン 32団体 延136回開催
ふれあい喫茶 132団体 延586回開催
第2期モデル地区の指定 6自治会(8頁参照)

見守り活動を進めるための担い手づくり

見守り活動の担い手となるのが「福祉委員」です。民生委員や自治会長等との連携を図りながら活動を進めました。

また、見守りをテーマとした研修会を4支部で開催しました。

福祉委員数 779名
福祉委員研修会 264名



当事者組織への支援

男性介護者の会やひまわりの会、身体障害者福祉協会などの**当事者組織や団体が主体的な運営を進めていけるよう**側面的な支援を行いました。



地域の特性にあわせた支部発の福祉活動

「支部地域福祉推進委員会」を各支部に設置し、福祉課題について協議し、支部運営の活性化を図りました。

推進委員会 9回
かわら版編集委員会 10回
かわら版の発行 8回

退職世代のセカンドライフを応援

退職世代を対象に、「第3期セカンドライフ応援セミナー(6回講座)」を開催し、地域活動のきっかけづくりや仲間づくりを進めました。

内容 料理教室、災害学習等
受講者数 12名

災害救援活動の強化～豪雨災害の経験や教訓を生かす～

平成21年台風9号豪雨災害から5年が経過し、この経験を教訓にした**取り組みを実践**しました。

8月には丹波市域における豪雨災害の被災地を支援しました。

丹波市災害救援 V32名 職員2名
災害V養成講座(3回) 11名
災害VC運営模擬訓練 67名
災害救援基金積立 300万円



住民が主役の社協広報紙

毎月発行の「こんにちは!社協です!!」では、「ひ孫といっしょ」や「いきいきライフ」のコーナーなど、住民が主役の広報紙をめざし、さまざまな福祉情報を発信しました。また、本会ホームページもリニューアルしました。

発行回数 12回
発行部数 14,400部

手作りお弁当で安否確認

「配食サービス事業」では、ひとり暮らし高齢者等にボランティアが調理した手作りお弁当をお届けし、安否確認を行いました。

実施回数 326回
延べ配食数 15,981食
利用料の改定 1食400円
(8月から)

住民の協力による福祉活動財源の確保

市民の生活を支える地域福祉活動は、**善意銀行の預託金、社協会費、賛助会費、共同募金配分金**などの自主財源により支えられています。26年度も市民や関係団体・事業所等、皆様の協力をいただきました。

活動備品の有効活用

善意銀行預託金などを活用して、ふれあいサロン・喫茶などで気軽に楽しめる**室内遊具等の無料貸出**を行いました。

貸出件数 505件



※実績数は4支部をまとめたものです。

や
まさき

見守り活動の学習会を開催

五十波福祉連絡会

五十波自治会は、2013年度の自治会で、昨年度から本会の小地域福祉活動モデル地区として、2年間の活動に取り組んでいます。

5月23日(土)この日は、「私たちの地域(自治会)の福祉について考えよう」をテーマに、福祉連絡会と各種団体が合同で学習会を行い24人が参加しました。

本会職員から見守り活動の事例を紹介し、「倒れている人を発見した時はどうすればいいか」「見守りは民生委員さんと連携することが大切」など、見守り活動の進め方について話し合いました。

同自治会では、ご近所で開催「ご近所ボランティア活動『e生活応援隊』や、高齢者の居場所づくりとして新たにサロンを開催するなど活動が広がっています。

また、畑に残された野菜を利用できないかと生産者に呼



『ご近所ふれあい市』は、施設や作業所にも出店を呼びかけ子どもからお年寄りまで参加し大盛況(五十波自治会公民館)

びかけ、軽トラックの荷台をお店に変えた『ご近所ふれあい市』を開催し、住民同士のふれあいの場になっています。地域の問題を考え、自分たちで地域を元気づける五十波発の取り組みが、市内にも広がっていくよう応援していきます。

(山崎支部 森井裕矢)

い
ちのみや

ボランティアさん「ありがとう!!」

「やすらぎデイサービスセンター」

平成9年の開設当初から、社協のデイサービス事業所「やすらぎ介護センター」には、たくさんの方々が、ご利用者とふれあうボランティア活動に来ていただいています。

5月28日には、そんなボランティアの皆様は、皆様の活動に対する感謝と交流を目的に、「デイ・ボランティアのつどい」を開催しました。

当日は、6つのグループから16人の参加がありました。活動経験はさまざまで、「やすらぎ」が始まった時から17年間、やさしく楽しくご利用者へ声掛けしながら接していただいている「ご近所さんから、一昨年「傾聴講座」を修了された傾聴ボランティアの方々」と多彩で、歌やレ



ご利用者で行っているレクリエーション「ふうせんばくだん」で盛り上がるボランティアのみなさん

クリエーションを交え、いろいろな意見交換を行い、交流を深めることができました。

また、「やすらぎ」の取り組みや状況を伝えると、ご利用者の減少や減収を心配していただいたり、午後からのレクリエーションの取り組みに興味を持っていたり…。

いつも関わってもらっているも、改めてお知らせすることが必要なんだなあと、気付かされたつどいでした。

(本部 可藤和成)

は
が

おたよりがつなぐ心のふれあい

あいめ～る活動を始めて19年

ふれあい郵便「あいめ～る」は、民生委員児童委員さんが、75歳以上のひとり暮らし高齢者の希望者に、友愛訪問や見守り・声かけをかねて年間9回ほど、おたよりを配達する活動です。

おたより書きは、地域の個人ボランティアに支えられており、5月29日(金)おたよりボランティアに取り組んでいる波賀中学生の話を聞いてきました。

代表の田路加奈さんから「おたよりボランティア呼びかけのチラシを作ってます。声をかけてもらうとうれしい」また活動のメンバーからは「ひとり暮らしの方は心細いと思って少しでも力になれば」と始めました」等の感想があるなど、生徒会を中心に各学年で2～3名が参加し、活動の輪が広がっています。

上野南地区担当の山田千晴



シールで飾りをつけ宛名を書いて出来上がり♪
(中学校にて)

民生委員さんは「声をかけて手紙を渡すと、お話しするのを楽しみにされています」、また、戸倉・道谷地区担当の上垣利幸民生委員さんは「手紙を持っていくことで声かけのきっかけになるな」と話されます。

この活動は、「おたよりを書く人」「届けて声をかける人」と、それぞれが大切な役割を担っています。

今後またあたたかいひと言葉を添えた通のおたよりは、「人や地域をつなぐ仕組みづくり」を支えていきます。

(波賀支部 坂本幸子)

ち
くさ

リズムに合わせて変身だあ！

体操グループ『マイナス5』

6月3日(水)、センターちくさで、体操グループ『マイナス5』が、初めての試みとして

出前のリズム体操を行いました。この日は、千草お達者クラブ参加者のみなさんと手遊びや柔軟体操をリズムに合わせて行いました。

『マイナス5』は、名前のとおり「体重5kg」「ウエスト5cm」を目指して子育て中のお母さんたちが、8年前から、月2回子どもと一緒にリズム体操をしています。

グループ代表の山田沙織さんは、「自分たちが楽しんでしている体操を通して、地域のみなさんと交流したいなあと話し合っていたので、今日は本当に有意義でした」と、今後の地域での活動にも意欲的です。

「子どもたちもすぐになじみ、楽しんでいました」「こんなかわいい子たちと

過ごす、自然に笑顔になるなあ。楽しいわあ」と会場は和気あいあい。

若いお母さんたちも子どもと一緒に、地域の方々との交流やふれあいを希望されています。リズム体操を通して、地域の交流の輪が広がっていくことを期待しています。

(千種支部 山本めぐみ)



親子12人とお達者クラブの参加者15人が一緒に、ドキンちゃんに変身(センターちくさ)

読者の
感想より

たくさんの種類のボランティアがあるのですね。少しでも皆様のお役に立ちたいと思っていますので、ボランティアの仲間に入れていただきたいと思います。(山崎町 女性)

小学・中学
高校生対象

サマーボランティア体験教室



防災学習

～消防士さんのお話を聞こう～
消防車の見学、器具の体験ができるよ!

- 7月29日(水) 午前10時～12時
宍粟防災センター

キャブパハンディ

～手話でお話してみよう～

- 8月4日(火)・5日(水)全2回
午後7時～8時30分
一宮保健福祉センター

～アイマスク体験や
盲導犬について学ぼう～

- 8月20日(木)
午後1時30分～3時30分
メイプル福祉センター
- 8月10日(月)
午前10時～12時
千種保健福祉センター

古切手でしおり

～古切手の整理としおりを作ってみよう～

- 7月30日(木) 午後1時30分～3時 メイプル福祉センター

お便りボランティア

～お便りを書いて元気を届けよう～

- 7月30日(木) 午前10時～12時 千種保健福祉センター

お弁当作りと配達

～お弁当の調理や配達を体験しよう～

- 7月27日(月) 午前11時～午後4時30分 宍粟防災センター
- 8月 7日(金)・25日(火) 午前8時30分～11時30分
一宮保健福祉センター
- 8月 7日(金)・21日(金) 午後1時30分～5時
メイプル福祉センター
- 8月 4日(火)・11日(火) 午後1時～4時
千種保健福祉センター

病院ボランティア

～宍粟総合病院で患者さんのお出迎え～

- 8月1日(土)～8月31日(月) 午前8時50分～11時の希望日
但し、土曜日、日曜日は除く

中学生以上
対象

※各学校を通じてチラシを配布しますので、詳細はそちらをご覧ください。

ボランティア
センター日誌

ええつどいやったね



「今日は体操して体が軽くなったわ」と参加者

5月13日(水) 宍粟防災センター

山崎ボランティア連絡会では、「平成27年度ボランティアのつどい」を開催し、69人の会員が参加しました。

新会長の松下由美子さんより「楽しくボランティア活動をしましょう」と挨拶があり、宍粟市吹奏楽団の木管アンサンブルグループMokumocoや本会職員のギター演奏が行われました。

また、元気でボランティア活動ができるようにと、保健師から「いきいき百歳体操」を指導いただき、みんなで体を動かしました。

参加者からは、「ええつどいやったね。元気もらったからこれからも頑張ろう」と感想があがり、会員の交流と今後の取り組みにつながる一日となりました。
(山崎支部 横山洋子)

めいちゃん結成 5年!



宍粟総合病院が地域に密着した病院に、そしてボランティアが地域と病院の架け橋になるようにと平成22年に結成された「病院ボランティアめいちゃん」。この5月で5年を迎えました。

現在メンバーは27人に増え、従来の玄関前での活動のほか、毎週月曜日は透析患者さんのお手伝いに取り組むなど活動の幅も広がりました。

グループ結成当時から活動されている釜田勇さんは「始まってもう5年。このグループはすごいよ。みなさん本当に熱心に活動されている。メンバーも増えありがたい。今は自分が活動に行けないことが多くなったが、みんなに助けてもらい活動しています。」と話されます。

今や宍粟総合病院の『顔』としてすっかり定着しためいちゃん。これからも病院を訪れる方々にたくさんの笑顔と安心を届けてください。

(本部 田中 祥仁)